

第16回スクールリーダー・フォーラム

学校のコラボレーション 協働・持続・創発

— 大学・学校・教育委員会のコラボレーション —

大阪教育大学・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会合同プロジェクト 協力 福井大学教職大学院 鳴門教育大学教職大学院

日時

2016 (平成28) 年
11月12日(土)

場所

大阪教育大学
天王寺キャンパス

形態

ラウンドテーブル型
(語りと傾聴による学び合い)

プログラム (敬称略)

第一部 10:30—12:40

場所 ミレニアムホール
司会 佐藤 誠治 (大阪府教育庁)

- 10:30 開会あいさつ
入口 豊 (大阪教育大学理事・副学長)
和田 良彦 (大阪府教育庁教育監)
大継 草嘉 (大阪市教育委員会教育次長)
- 10:45 基調講演
学校のコラボレーションを拓く
水本 徳明
(同志社女子大学・京都教育大学連合教職大学院教授)
- 11:45 休憩
- 11:55 学校現場からの発信
併設型中高一貫教育校における校務運営体制の整備
森 知史 (大阪市立咲くやこの花中学校高等学校校長)
- 同窓会とコラボしたキャリア教育
—「教えてっ!先輩」の取組み—
吉田 景一 (大阪府立港高等学校校長)
- 12:25 ピアノとチェロの共演
田中 紘二 (大阪教育大学名誉教授)
大木 愛一 (大阪教育大学教授)
- 12:40 昼食・休憩
教職大学院生交流会 (大阪 福井 鳴門 岡山) 213教室

第二部 13:40—17:30

場所 214・215教室 司会 北村 宏貴 (大阪市教育委員会)
説明 三枝 由佳里、北村 宏貴 (大阪市教育委員会)

- 13:40 ラウンドテーブル
学校のコラボレーションを組織する
—「語り・聴く」学習コミュニティ—
大阪府教職員、大阪市教職員、大阪教育大学教職大学院生、福井大学教職大学院生、鳴門教育大学教職大学院生、他 30名
各グループ6人編成で、報告者2名(報告40分+話し合い30分)が学校のコラボレーションについて物語り、参加者が傾聴し、協同的に実践を省察します。時間配分(180分):司会者発題・自己紹介20、報告A70、休憩10、報告B70、まとめ10
- 16:40 休憩・移動
- 16:50 総括講演
学校のコラボレーションへの挑戦
— 学校の未来 —
末松 裕基 (東京学芸大学講師)
- 17:15 メッセージ
「チームとしての学校」への期待
福島 崇 (文部科学省高等教育局専門教育課 企画官)
- 17:25 閉会あいさつ
大脇 康弘、深野 康久 (大阪教育大学)
- 17:30 終了

※交流会 18:00より天王寺駅近くで開催

大会概要

- 日時 2016(平成28)年11月12日(土) 10:30~17:30 (開場は10:00)
- 場所 大阪教育大学 天王寺キャンパス
ミレニアムホール、213・214・215教室 他
- 対象者 スクールリーダー:大阪府内の学校・教育委員会に勤務する教職員、行政職員、および大学研究者
- 定員 84名(インターネット事前申込制)
- 参加費 無 料
- アクセス 大阪教育大学 天王寺キャンパス
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町4-88
TEL(06)6775-6611
JR天王寺駅・地下鉄天王寺駅・近鉄大阪阿部野橋駅下車、約650m
JR寺田町駅下車、約400m

申込方法

1. インターネット申込
大阪教育大学HPにて10月中旬にご案内します。
そのHP上から次の事項を記入して、申し込みください。
1. 名前、勤務校・機関、職位、電話番号、E-mailアドレス
2. 自己紹介文(200字程度) 3. その他
2. 申込締切日 2016(平成28)年11月4日(金) 必着
3. 参加の可否
申込受付後10日以内にE-mailにて参加の可否をご連絡します。定員に達し次第、締め切らせていただきます。参加者はこの冊子で事前学習してください。
4. 問い合わせ先
大阪教育大学 学務部天王寺地区総務課 総務係
E-mail: yakan@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

スクールリーダー・フォーラム事務局

- 大阪教育大学スクールリーダー・プロジェクト(SLP) 大脇康弘 深野康久 水野治久 田中満公子
■大阪府教育庁 教育振興室高等学校課 学校経営支援グループ ■大阪市教育委員会 総務部教育政策課 企画グループ

学校のコラボレーション:協働・持続・創発 —実践を切り拓く—



第16回 スクールリーダー・フォーラムの趣旨

スクールリーダー・フォーラム (SLF) は、スクールリーダーの「学びの場」を創り出す取り組みです。このフォーラムは大阪教育大学と大阪府教育委員会および大阪市教育委員会の合同プロジェクトとして開催します。加えて、福井大学教職大学院、鳴門教育大学教職大学院の協力を得ています。

第16回フォーラムは、「学校のコラボレーション:協働・持続・創発」がテーマです。教職員の連携・協働、「チームとしての学校」による多職種の連携・協働など、学校内外における多様なコラボレーション(協働)について、その意義・可能性・課題について考察を深めます。例えば、養護教諭、事務職員、スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)と教職員の協働の取組みが上げられます。

この学校づくりの実践を報告する時、次の点に留意してください。

①学校の内外における連携・協働の実践を扱うが、副題の「協働・持続・創発」を基本に置く(単発の行事、一時的な取り組みは避ける。)。②連携・協働の内容・方法・形態を静的に報告するのではなく、連携・協働の過程とそこにおける葛藤・調整を動的に描くことが必要である。③連携・協働を担うスクールリーダーがどのような役割・活動を担ったかを明確に示す。

基調講演では学校のコラボレーションの動向と特徴を整理し、それを支える原理と課題について検討します。続いて学校現場の実践が事例報告されます。ラウンドテーブルでは学校の内外におけるコラボレーションについて多様な実践が報告され、語り聴く活動に取り組みます。報告者は30人(予定)です。総括講演では学校のコラボレーションに挑戦する意義と困難さについて整理します。これらを通して、学校づくりの現状と未来を考えていきたいと思います。

フォーラムでいうスクールリーダーは「学校づくりの中核を担う教職員」で、校長、教頭、主幹教諭(首席)、指導教諭、主要な主任、事務長などを含みます。ミドルリーダーは「学校づくりを最前線で担うチームリーダー」でプレーヤーとマネージャーの役割を併せて担う、主幹教諭・指導教諭、教務主任・研究主任・生徒指導主事・進路指導主事などを含みます。

スクールリーダー・フォーラムでは、スクールリーダー、指導主事、大学教員が一堂に会して、実践を交流していきます。立場・役割が異なる参加者一人ひとりが主役となり、それぞれの役割を担っていただきます。充実したフォーラムになるよう取り組んでいきましょう。



ラウンドテーブルの報告者・関係者

ラウンドテーブルの報告者

大阪府教職員: 竹本三保(狭山高校 校長) 佐々木啓(北淀高校 教頭) 岡 成暢(西成高校 首席) 保田光徳(堺工科高校定時制 首席) 山下すみえ(東淀川支援学校 首席) 山本幸子(和泉支援学校 首席)

大阪市教職員: 山口さゆみ(花乃井中学校 教諭) / 塩野谷寿延(小路小学校 教諭) 横田勝一郎 / 小林明央(天下茶屋中学校 校長 / 首席) 川島彰允(鶴見橋中学校 教諭) 多田真理子(十三中学校 教諭) 栗本要人(咲くやこの花高校 首席) 辻本智加子(淀商業高校 指導教諭)

大阪教育大学連合教職大学院・夜間大学院(修了生) 他: 中山大嘉俊(大阪市立堀江小学校 校長) 浅川功治(甲南小学校 教諭) 木田哲生(堺市立三原中学校 教諭) 前田良隆(野崎高校 首席) 河上弘子(四条畷市教育委員会 課長) 尾崎真弓(伊丹市総合教育センター 主幹) 坂口朋子(大阪市教育センター 指導教諭) 澤野弘幸(大阪市教育センター 指導教諭) 宮城良明(箕面高校 教頭) 米津俊司(大阪教育大学教授) 牧 郁子(大阪教育大学教授)

福井大学教職大学院: 坪川修一郎(福井市明新小学校 教諭) 塩川 史(奈良女子大学附属中等教育学校 主幹教諭) 佐藤大典(奈良女子大学附属中等教育学校 教諭) 加藤正弘(福井大学 コーディネートリサーチャー)

鳴門教育大学教職大学院: 前田康晴(鳴門市立鳴門中学校 教諭) 前林宏典(鳴門教育大学附属特別支援学校 教諭) 福田幸司(徳島県総合教育センター 指導主事)

岡山大学教職大学院(修了生): 久松満里子(井原高校 主幹教諭)

ラウンドテーブル関係者

大阪府教育委員会: 西田恵二、伊藤範子、片山 造、榊井則子、佐藤誠治、塩見圭祐

大阪市教育委員会・教育センター: 川本祥生、三枝由佳里、北村宏貴、茨木久治、仲田弘伺、兼坂幸雄

大阪教育大学大学院: 大脇康弘、深野康久、水野治久、田中満公子、瀧野揚三、米津俊司、餅木哲郎、森 均、牧 郁子

福井大学教職大学院: 加藤正弘、永谷彰啓

鳴門教育大学教職大学院: 前田洋一、大林正史

岡山大学教職大学院: 金川舞貴子

京都教育大学連合教職大学院他: 水本徳明、榊原禎宏

フォーラム講演者Profile

水本 徳明 (Mizumoto, Noriaki)

同志社女子大学特任教授、京都教育大学大学院連合教職実践研究科教授

学校経営学、共生教育学専攻。社会システム論的な観点から学校制度と学校組織について考えてきた。権威主義的なものに知的に挑戦することを大事にしてきた。共著書に「次代を拓くスクールリーダー」(ぎょうせい、2011)『共生と希望の教育学』(筑波大学出版会、2011)『システムとしての教育を探る』(勁草書房、2011)『公教育経営の展開』(東京書籍、2011)。

末松 裕基 (Suematsu, Hiroki)

東京学芸大学教育学部講師

学校経営学専攻。日本の学校経営政策、スクールリーダー育成をイギリスとの比較から研究する。日本教育経営学会の国際交流委員会委員、日本学習社会学会の理事。編著書に「現代の学校を読み解く—学校の現在地と教育の未来」(春風社、2016)、共著書に『学校づくりとスクールミドル』(学文社、2012)『学校経営の国際的探究—イギリス・アメリカ・日本』(酒井書店、2012)。

ピアノとチェロの共演

「いのちと向き合う音の世界」

曲 目: お楽しみに

ピアノ:
田中 結二(大阪教育大学名誉教授)

チェロ:
大木 愛一(大阪教育大学教授)

ラウンドテーブルの取組指針

—「学校のコラボレーションを組織する」を語り聴く—

スクールリーダー・フォーラム事務局



ラウンドテーブルとは

ラウンドテーブル (RT) は、6 人程度の少人数グループに分かれて、語りと傾聴によって学び合う学習方法です。円形になってお互いに顔が見える関係で、報告者は学校づくりの実践についてじっくり物語り (narrative)、参加者は報告者の実践の展開を文脈に沿って聴き取り (listen) 共有していく中で、協同して実践を省察していきます。今回のテーマは、「学校のコラボレーションを組織する」です。

報告者は学校づくりの実践を記録・資料を手がかりに時間をかけて語ります。実践の期間は 1 校で 1 年から数年にわたります。参加者は、報告者が事例やエピソードを交えて語る展開に耳を傾け、活動の場面を共有し、報告者に寄り添う形で質問し、実践を深く理解しようとしています。ファシリテーター (司会) は、この学び合う関係が形成されるよう適切な支援と働きかけを行います。こうして、報告者と参加者が共に実践を省察し探究を進めていきます。

このラウンドテーブルには次の四つの特長があります。

第一に、報告者はじっくり時間をかけて自分の実践を物語る貴重な機会を得られます。

第二に、参加者は少人数のグループで報告者の実践の展開を確かに受け止めていきます。時には、参加者が報告者に率直な問いかけを行い、問題を深める契機を作ることもあります。

第三に、多様な属性・キャリアをもつ人々が集まって聴き合うことから、報告者は内容のテーマ・構成について個別性と一般性を意識して、伝える工夫をします。スクールリーダーに関わる実践は個別具体的で特定の社会的文脈の中で行われていますが、それを異なる属性・キャリアを持つ人にわかるように伝えていくことが必要です。その作業を通して、自分たちの実践をパブリックな仕事として位置づけ直すことになります。

第四に、異なる属性・キャリアの人々に物語り話し合う体験を通して、報告者には気づきや発見、新たな問いが生まれ、それが自分の実践を再構成する契機になります。

こうしてラウンドテーブル参加者は、「語り・聴く関係」を基礎とした「学習コミュニティ」を形成していきます。それは、報告者の実践—省察—再構成の学習サイクルを支える土台となります。



1 全体の概要

- ①グループメンバー 6 名 (14 ~ 16 グループを予定)
 - ・異なる校種・職位などを組み合わせてグループ構成する。
 - ・報告者スクールリーダー 2、大阪教育大学・福井大学・鳴門教育大学 1、大阪府教育委員会・大阪市教育委員会 1、フォーラム申込者 2
- ②役割分担：司会 1、報告 2、タイムキーパー (時間調整役) 1、書記 (レポート作成) 1
 - 書記は、討議の内容を簡潔に整理すると共に、自分の感想をまとめたレポートを作成し、終了後 14 日以内にフォーラム事務局に送付する (A4 判 40 字×50 行で 2 頁以内)。
- ③時間配分 180 分：司会者発題・自己紹介 20、報告 A 70、休憩 10、報告 B 70、まとめ 10
 - 一人当たり 70 分 (報告 40 + 話し合い 30)
- ④グループ、役割などはフォーラム当日に発表
- ⑤報告者の課題
 - a. フォーラム報告書の掲載原稿
 - 書式 A 4 版横書 40 字×50 行 2 枚、10p (ポイント) MS 明朝、余白 上下 25mm、左右 30mm、題目は 11p MS ゴシック 太字、節題は 10p MS ゴシック 太字、ファイル名「SLF16-3 名前 20160831」
 - b. フォーラムでの報告 70 分、配付レジュメ (枚数自由) 10 部、内 3 部は受付に提出
 - c. 提示する資料など



報告「学校のコラボレーションを組織する」の組み立て

1 基本要件

- ① 報告のテーマ、コンセプトとストーリーを明確にしてください。
- ② 学校づくりに関わる実践をリアルに語ることと、自己の役割・活動を明確にすることが大事です。また、実践の一般化、応用可能性について述べる場合は、概念や枠組みを当てはめるのではなく、実践的知見をまとめてください。
- ③ 事例やエピソードを盛り込む、資料を提示する（静止画、iPad 使用は可）など、メンバーにアピールするよう工夫してください。
- ④ 事前に語りを練習し、時間配分を調整しましょう。
- ⑤ 報告者は、レジュメの作成（原稿作成も可）、語りを通して、自らの実践を整理していきます。実践者として貴重な財産を得ることになります。
- ⑥ 当日は報告書掲載原稿・配付資料を基に自由に語ってください。話を膨らませたりカットしたりすることも OK です。メンバーとの話し合いを通して気づきや発見、新たな問いに出会えます。
- ⑦ 当日の報告では、パワーポイント等は使用できません（配付資料 ppt. は可）。また、提示する資料は、下記 2 の内容構成に従ったもので、精選してください。資料を読み上げる報告ではなく、資料を示しながらも学校の状況、取り組みや変容過程を「語る」ことに重点を置いてください。なお、参考資料は、話し合いの時間に配付してください。
- ⑧ 学校づくりに関わる実践を振り返り理論的に整理すれば何が言えるのか、また、その経験から学んだことや気づいたことも述べてください。

2 内容構成について

内容構成は、コンセプトとストーリーをふまえて自由に構成します。

* 全体を5つ程度に分節化し、題目、節題を工夫しましょう。

次の項目は入れてください。

- ・ プロフィール：教職経験年数、勤務校数、現任校での勤務年数、職位・役割
- ・ 学校の特性：生徒数・クラス数、教員数、教員の年齢構成、

教員集団の特徴、地域特性

- ・ 学校づくりの特徴と過程（学校づくりの組織体制・組織間関係や組織的な動き）、成果と課題（教育活動の改善、教職員や児童生徒の変容など）
- ・ 学校の協働に関する実践の省察（学校づくりの過程で自分が果たした役割・行動、それらの意味や課題、その過程で何を学んだかなど）



ラウンドテーブルの配席図（一部）



3 当日の取り扱い

1 場所、形態など

- ・ 場所 中央館 214・215 教室
- ・ 机といすの配置 円卓型
- ・ 当日の配付資料で、グループ名、役割を確認してください。

2 主な役割について

- ① 報告者は、フォーラム報告書のレポートを基に、じっくり語ります。報告者は振り返り、物語り、話し合う過程でスクールリーダーに関わる実践を整理し、新たな課題が見えてきます。
- ② 参加者は、報告者の語りを傾聴しその内容を深めたり広げたりするために、問いかけ、話題提供し、話し合いに参画します。この冊子の論稿を読んで、事前学習してください。
- ③ 司会者は、ファシリテーターとして、メンバーの学び合いが深まるよう適切な方向付け、問題整理、助言を行います。司会者はラウンドテーブルの運営と今日のねらいを確認して下さい。その後、各自に自己紹介をしてもらいますが、司会者が出したお題に沿って（例「最近良かったできごと」）、2分以内で行います。
- ④ タイムキーパー（時間調整役）は、各報告について 20 分、40 分 / 70 分の時点で時間を確認し、報告者に知らせてください。グループで時間配分に沿って取り組めるよう、司会者、報告者は配慮してください。
- ⑤ 最後に、書記（レポート作成者）が今日の主題を整理し、自らの気づきや深まりを述べて、まとめとします。

（文責）大脇 康弘